



## 6. ゲームの進め方

### (1) サービス権の決め方

トスマたはジャンケンにより勝った方がサービスかコート of のいずれかを取る。

### (2) サービス

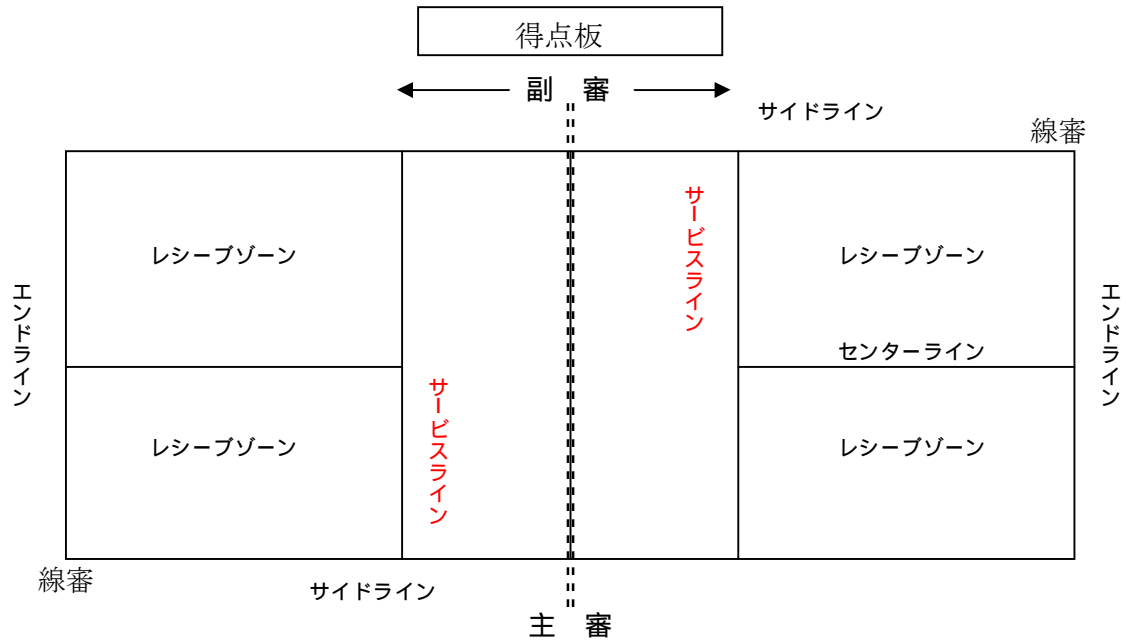
- ①サービスは1回。サービス動作は1回とする。
- ②サーバーは、エンドラインの外側に立ち、エンドラインの外側に落としたボールをアンダーハンドで打つ。ボールはネット上をフロアーより概ね2 m以上高くなるように、また打ちやすいボールを打たなければいけない。
- ③強い回転等がかかりレシーブするのに難しい状態の時は、審判はやり直させることができる。
- ④サービスはサービスゾーン内で打つ。
- ⑤サービス行うときに、エンドラインを踏んだり、踏み越してはいけない。
- ⑥サービスは、ボール、ネット等に当たらずに相手コートのレシーブゾーンにボールが入らねばならない。
- ⑦レシーブチームが得点した時は、左右のローテーションをし、右側に来た者がサービスを行う。

## 7. 得点と勝敗

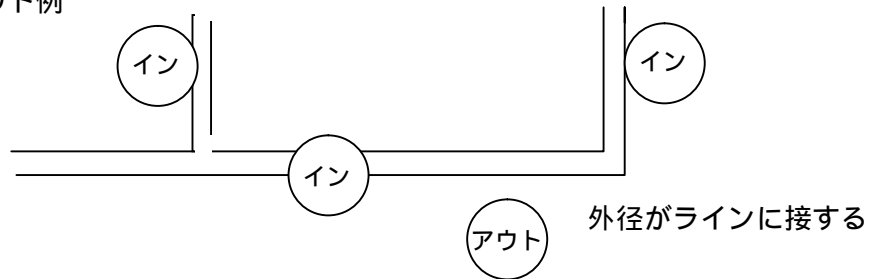
- ①ゲームはラリーポイント制 15 ポイント先取とする。
- ②ゲームは3セットマッチで行い2セット先取した方が勝ちとする。

## 8. 競技方法とルール

- ①サーバーはネットに対して正体、横体のどちらでもよい。
- ②サービスのアウトボールは、その時点で反則とする。
- ③必ずワンバウンドで打つ。
- ④ラインに触れたボールは全てインボールとする。
- ⑤ラケット及び体の一部等がネットに触れた場合は反則とする。(ネットタッチ)
- ⑥相手コート内のボールに触れた場合は反則とする。(オーバーネット)
- ⑦相手から打たれたボールが、自コート内(サービスの場合は、レシーブゾーン内)でワンバウンドした後に体に触れた場合やワンバウンドせずに直接体に触れた場合は反則とする。(ボディタッチ)
- ⑧ボールがネットポールに触れた時、またはポール間を通過しなかった場合は反則とする。(アウトボール)
- ⑨ラケットにボールが2度以上当たった場合は反則とする。(ドリブル)
- ⑩ダブルラケットでのレシーブはセーフとする。
- ⑪審判は主審、副審の二人で行う。
- ⑫線審(2名)、得点掲示(2名)は、対戦外のチームから出る。
- ⑬サーバーへのスクリーン行為は禁止とする。
- ⑭ボールが破損・変形した場合、主審及びプレイヤーと相談し交換できる。



#### ボールのイン・アウト例



### 9. 審判の進め方

#### (1) 試合前のあいさつ

- ①双方のチームがサービスライン上に横一列に並ぶ。監督などチームの役員は審判側に立ち相手チームと向かい合う。
- ②チームが整列したら、主審の合図でネットを挟んで双方が向かいお互いに挨拶をして、次ぎに審判とあいさつを交わす。
- ③挨拶の際の審判の位置は、主審の左側に副審、線審が立つ。

#### (2) サービス（レシーブ）とサイドの決定

- ①試合前の挨拶が終わったら、トスまたはジャンケンを行い勝ったチームは、コートを選ぶか、最初のサービス権を取るか、いずれか一方を優先的に選択することが出来る。
- ②第1セット以外の各セットのサービス権は、前のセットにおいてサービス権を行使しなかったチームが行う。
- ③コートはセット毎に交換する。
- ④第3セットはいずれかのチームが8点先取したとき、再び交換する。

(3) 試合中の審判の位置

- ①主審は、ネットポストの後ろに位置する。
- ②副審は、サービスの判定の場合は、レシーブ側のサービスラインの仮想延長線上に位置する。ラリーが続いている時はネットポストの後ろで主審と相対する位置に立つ。
- ③線審はエンドライン付近に対角に位置する。

(4) 審判の合図

- ①サービスは、主審の吹笛により行う。サービスのとき主審は手を真上に上げる。
- ②主審は、インのボールに対しては原則としてサインしない。アウトボール、ネットタッチ、ネットオーバー打ち、ノーバウンド打ち、二度打ち、体にボールが触れた場合は吹笛する。
- ③副審は、サービスの判定はフォルト（アウトボール、ネット等に当たる）の場合は手をまっすぐ上に挙げる。インのサインの時は特に必要と認める場合は、片手の手のひらを下にして前に差し伸ばし主審に知らせる。
- ④線審は、エンドラインのアウトかインかを判定する。アウトの場合は、手または旗をまっすぐ上に挙げる。インのサインの時は特に必要と認める場合は、片手の手のひらを下にして前に差し伸ばし主審に知らせる。
- ⑤アウトボールの判定は、ボールが床に着地した時点でサインする。

(5) その他について

- ①主審は、ボールがアウトかインであるかに確信が持てない場合は、副審に確認しても良い。
- ②サーバーの誤り、ローテーションの誤りが発見された場合は、誤りが発見されるまでに得た得点は認める。そして誤ったチームのプレイヤーの位置を直ちに訂正し、サービス権は移行するとともに相手チームに1点得点される。
- ③タイムアウトは、各チームセット毎1回のタイムアウトを取ることができる。時間は30秒以内とする。各セット間の競技停止時間は1分以内とする。
- ④プレイヤーがケガ等で試合続行できなくなった場合のみプレイヤーの交代を認める。交代したプレイヤーは次のセットも出場できる。

(6) 試合後のあいさつ

- ①試合が終了したら試合開始前と同様に整列し、主審が勝敗宣告をした後お互いにあいさつをして解散する。